

バイリンガル・CLILプロジェクト の導入

Changing the “Chip”!

Teresa Reilly

Japan workshops

August 2011

目的

- 初期に持ち上がった課題を検討する
- 過去16年の間に経験した困難な課題や知識を振り返る
- あなたの小学校の学習者と「始める」にあたって、基本的な指針を示す

プロジェクトの目的

- 3-16歳の公立学校の児童・生徒に対し、スペイン語と英語でより充実した教育モデルを提供する。これは、カリキュラムに基づいた統合教科(教科横断型アプローチ)とスキルを提供することにより実施され、2つの言語と文化を取り入れることにより、質の高い社会的・学問的教育の経験を全ての児童・生徒に提供する。
- このモデルを通して教育を受けた若者は、2つの言語、2つかそれ以上の文化で機能し、益々国際化する社会に柔軟に対応できる準備ができる。

MEC(スペイン教育省) / ブリティッシュ・カウンシル プロジェクト

1996年 9月: MEC/ブリティッシュ・カウンシル 同意書

- 44 公立学校
- 44人の“スペシャル”プロジェクト 教員
- 3・4歳の1,880人
- 30-40%が英語で指導

2009年 9月

- 72初等学校・42中等学校72
- 3-16歳の28,000人
- 200人の“スペシャル”プロジェクト教員と1,200人以上のスペイン人教員が加わる
- 週50%まで英語で指導

スペインの英語バイリンガル教育プロジェクト: CLIL連携の “力強い”局面

- “トップ・ダウン”での政府の積極的な参加
- 幼児期からのスタート: 3歳
- 全関係者との同意
- 時期
- 協力的な学校の校風と強いリーダーシップ
- 幼児期から初等教育、中等教育(～16歳)にかけて、公式に認定されたカリキュラムをとおして計画し実施された
- 初等教育全体の1年生～6年生までが統合カリキュラムにそっている
- 初期の段階からのバイリンガルでの運用能力に焦点をあてる
- 教員のサポート
- 3校種をとうして継続すること、学力の向上、課題に焦点をあてる

関係者の当初の関心

- 政府: 言語教育の基準をあげる/教員教育: 言語レベル、方法論的アプローチ/予算
- 学校: 進歩と継続、長期にわたる投資/人材/変化への“恐れ”/ “できない”という文化/L1への影響
- 保護者: L1への影響/ 試験の成功/ 自分の子どもたちを“助ける”

保護者を巻き込み、協力を得る

➤ 最初のミーティング

- 教育と言語学習の原理を説明
- 保護者の懸念について話す- 試験、L1への影響、保護者はどのように“支援”できるか
- 開始当初から期待通りの成果を示す: 時間的要因

➤ 継続した支援

- 自分の子どもを支援するための簡単な方法を提供する
- 授業参観
- 常に情報提供する

課題 – Changing the teaching chip!

- 自信をもって科目を英語で教えることができる言語能力を身にけることができるか？
- 英語でより効果的に教えるにはどうしたらよいのか？
- 教材やサポートはどこから得られるのか？
- 上手くいっていることが、どうやって分かるのか。私たちは正しいことをやっているのか？
- 他の教員をどのように巻き込んでいけばいいのか？

教員サポート：“少しずつ！”

- 教室での言語
- 基本的な原則
- 教室の日常活動
- 教科書からはなれる
- 教科を横断したシンプルな教材を開発
- 初期から読み書き能力を導入：初期から読むことを計画的に取り入れる

幼児クラスで始める

- サークルタイム
- 毎日決めて行うことと反復練習
- 物語と読書
- ゲーム
- 工作
- 実験

学んだ教訓

- 長期にわたる政策の積極的な取り組みと深い関与が基本
- 選択/免除のようなプログラムではない: 一定期間続ける
- “飛び込み参加・すぐに脱退”のようなプログラムでもない
- 継続した教員への支援が必須
- 全関係者が基本的な原則を理解すること、 そして
- 忍耐強く: 結果はすぐに現れない
- 早ければ早いほど良い!
- 挑戦しがいがあり、継続させ、子どもたち自身の思考過程を伸ばすのに適切なカリキュラムが基本
- 全てのレベルでの協力・チームワーク

成 果

- 政策の変更: 国全体でバイリンガル学習法を取り入れる
- このモデルへの世界からの関心
- 試験: 初等教育6年生とIGCSE16歳
- カリキュラム 教員サポート
- リサーチ: 評価研究
- 子どもたちの成功
- 付加価値
- 中等教育での成功につながる

付加価値

子どもたちには次のような付加価値がある

- 全教科で、高い集中力とリスニング力を示す
- 高い認知技能: 質問をする、要約をする、予測する
- 人生は“白と黒”ではないという認識
- 自立学習のスキル
- 自信
- 困難に立ち向かう能力と意欲
- 拡大する世界の一員という知識

Teresa Reilly 略歴

Teresa Reilly, Bilingual Schools Manager, British Council Madrid

ブリティッシュ・カウンシルで30年にわたって、講師・教員研修・プロジェクトマネージャーとして勤務。1997年よりブリティッシュ・カウンシル(スペイン)のバイリンガル・プロジェクトマネージャーとして、スペイン教育省やスペイン政府と協同し、ブリティッシュ・カウンシルの教員研修とバイリンガル・カリキュラム開発分野における専門知識と経験を活用し、スペイン国内の公立学校へのバイリンガル・プロジェクト導入に携わる。スペインのみならず、英国やヨーロッパ諸国で、バイリンガル教育をテーマに講演多数。また教員向けの本やテキストなど、バイリンガル教育に関する著書も多数ある。

バイリンガル教育を受けた子どもたちは、初等・中等教育を終える頃には、色々な教科で(理科、地理、歴史や美術など)英語で自信をもってコミュニケーションが取れるようになる。これにより、近年のグローバル社会の中で、自信をもって社会問題などに取り組むことができる子どもたちを育成することを目指している。